

図書館だより



9月号

令和7年9月2日
港区立青山中学校
校長 佐々木 希久子
学校司書 三島 裕美
図書館支援員 武田 優子
桑畑 恵美
小川 順子

夏休みも終わり、久しぶりに授業が始まりましたね。お休みはいかがでしたでしょうか。それぞれに実り多い夏を過ごしたと思います。

3年生はいよいよシンガポール修学旅行ですね。しっかり準備をして良い経験をしてきてください。お土産話を楽しみにしています。

青山中学校図書館には夏休み中に新しい本が届きました。新着図書コーナーをぜひチェックしてください。

夏休み特別貸出の返却期限は9月10日(水)です。

延滞のないようにしてください。

<今月の特集展示>

『旅行』

3年生はシンガポール修学旅行がありますね。楽しい思い出になるよう願ってます。秋に旅行の計画がある人も、お出かけが難しい人も、本を開ければそこには見たこともない素晴らしい景色、別世界が待ってます。ぜひ、本の中の旅を楽しんで読んでください。

<調べ学習支援>

1. 2年生は夏休みの課題で「港区図書館を使った調べる学習」に取り組んでいます。青山中学校図書館では皆さんが決めたテーマに沿った文献を提供、紹介します。参考文献は2冊以上必要です。近くの港区立赤坂図書館も協力していただきます。遠慮なく相談してくださいね！



青山中図書館恒例

シンガポールクイズに挑戦しよう

期間: 2025年9月2日(火)～9月30日(火)

本を借りた人が参加できるクイズイベントです。本を借りた人は図書委員に解答用紙をもらって、クイズの答えを記入し提出してください。全問正解者には選べる景品(文房具等)を差し上げます。シンガポールに詳しい3年生はもちろん、1、2年生もシンガポールの情報を先取りできます。期間中は何度でもチャレンジできます。

本を借りてシンガポールクイズに
挑戦しよう！
きっと全問正解できる！！



名作まちがいさがし

「少年の日の思い出」

ヘルマン＝ヘッセ



“僕”は、クジャクヤママユを見せてもらうために、隣に住む少年、エーミールの部屋を訪ねます。彼は不在でしたが、部屋には制作途中の標本がありました。羽の四つの斑点に魅入られたように、僕は標本に手を伸ばし……。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

激ムズポイントのヒント: 本棚の2段目

作品の概要・解説

チョウの収集に熱中していた僕は、ある時、隣に住む少年、エーミールがクジャクヤママユという珍しい蛾を羽化させたことを聞きつけます。教師の息子であるエーミールは模範的な少年で、かつて僕は自分のチョウの標本を彼に見せて、こっぴどく批評されたという苦い過去がありました。でも、どうしてもクジャクヤママユを見たい僕は、彼を訪ねていくのですが……。

少年の頃に経験した過ちと心の痛みを鮮やかに描いた短編で、何十年もの間、多くの国語の教

科書に掲載され続けている、日本での知名度が非常に高い作品です。エーミールの作中のせりふが印象的で、まねをして言ってみた人も多いのでは。

作者のヘルマン＝ヘッセ（一八七五～一九六二年）は、社会の中で個人の精神を追求した作品を多く残した、ドイツを代表する詩人・小説家です。

代表作には、優等生の挫折をテーマにした自伝的小説「車輪の下」、悩める少年の豊かな精神世界が展開する「デミアン」、美しい自然を背景に青春の苦悩を描いた「郷愁」などがあります。

※「少年の日の思い出」は各社の国語教科書で読めるほか、草思社などから発行されています。

『図書館のゆるゆる人生質問箱』 159ト

北海道斜里町立図書館/著(ワニブックス)



北海道東部・斜里町の図書館に寄せられた、中高生からの匿名の相談。それに、司書さんがやさしくゆる～く応えたやり取りを集めた1冊です。ちょっとヘンで、ちょっと深い相談を読んでいると、「悩んでいるのは自分だけじゃない」と思えてきます。本って、いろいろな悩みに寄り添ってくれるんです。この本も、きっと青中の誰かの背中をそっと押してくれるはずです。

(三島)

『さがしもの』 913/カ

角田光代/著(新潮文庫)



どこかで迷ったり、立ち止まったりしている人たちが、本との出会いで元気を取り戻していく…そんな9つの物語がつまった短編集です。失恋、家族のこと、友だちや将来のことなど、いろんな悩みが本を通して解決していきます。読み終わって心が軽くなるようなあたたかい1冊。本っていいな、と思える出会いがここにあります。(小川)

『ポニーテール』 913シ

重松清/著(新潮社)



母を亡くした小学4年のフミと親の離婚で母親に引き取られた小学6年のマキ。それぞれの親同士の再婚により姉妹になった二人。新しい家族が、優しい気持ちを持ちながらも素直になれず、葛藤しづつかり合いながら、次第に温かな家族となるストーリー。読んだ後に、家族に「いつもありがとう」と伝えたいくなるお話です。

(桑畑)

『一晩置いたカレーはなぜおいしいのか』 498イ

稲垣栄洋/著(新潮文庫 新潮社)



食欲の秋！農学博士の著者が、食材と料理のヒミツを科学的に説明します。表題の“カレー”は、うまみ成分の量は実は変わらないそうです。それが一晩置くとよりおいしく感じるのはなぜなのか…？他にも寿司、お好み焼きなど人気メニューの科学的な説明や、身近な野菜・果物の雑学も満載です。楽しくておながいです。

(武田)



九月のおすすめ本

